

各関係機関長 様

熊本県病害虫防除所長

ミカンハダニの発生状況及び防除対策（技術情報第7号）について（送付）

このことについて、下記のとおり取りまとめましたので業務の参考としてご活用ください。
記

現在、カンキツ類でミカンハダニの発生が増加傾向にあります。発生園では天敵類に影響が少ない薬剤を選択し、早めの適期防除に努めましょう。

1 発生状況

（1）巡回調査

9月中下旬の巡回調査における発生ほ場率は40.9%（前年13.6%、平年30.4%）、雌成虫の平均寄生葉率は8.2%（前年0.4%、平年3.5%）、平均寄生密度は4.5頭/10葉（前年0.1頭/10葉、平年0.9頭/10葉）と前年より多く、平年よりやや多い発生であった。このうち、13.6%の園地では要防除水準（雌成虫の寄生葉率30~40%または寄生頭数が5頭/10葉以上）に達していた（図1、図2）。

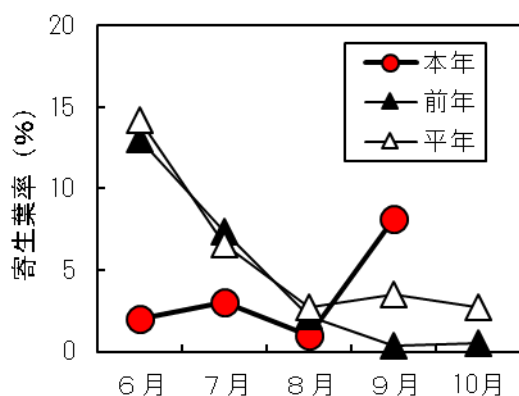


図1 ミカンハダニ寄生葉率の推移

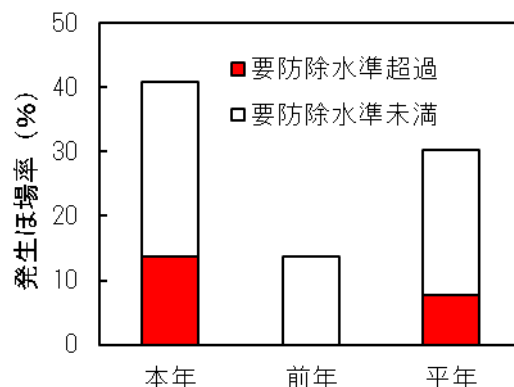


図2 ミカンハダニ発生ほ場率（9月）

（2）病害虫防除員による調査

県内6産地に委嘱している病害虫防除員の報告によると、9月の発生は平年並から平年よりやや多い状況であった（表1）。

表1 病害虫防除員による各地域の発生概況（平年比）

	ミカンハダニ			果樹カメムシ類		
	7月	8月	9月	7月	8月	9月
熊本市	並	並	やや多い	やや少ない	やや少ない	やや多い
玉名市	並	並	やや多い	並	並	やや多い
芦北町(芦北)	並	並	並	少ない	少ない	多い
芦北町(田浦)	並	やや多い	やや多い	少ない	やや少ない	多い
天草市(上島)	並	やや多い	やや多い	やや少ない	並	やや多い
天草市(下島)	並	並	並	やや少ない	やや少ない	やや多い

2 今後の発生予想

福岡管区気象台が10月5日に発表した九州北部地方1か月予報によると、向こう1か月の気温は平年並か平年より高い見込みであり、今後も平年より害虫類の発生に適した状態が継続する可能性が高いと予想される。すでに果樹カメムシ類等の対策としてピレスロイド系の殺虫剤（IRACコード：3A）を多用しているほ場では、天敵への影響によりミカンハダニが急増しやすい環境になっていることが懸念される（表1）。

3 防除対策

ミカンハダニの防除は低密度のうちに開始することが重要です。特に発生している園では以下のポイントに留意し、効果的な対策を行いましょう。

- (1) 要防除水準に達したら直ちに薬剤散布による防除を行う。
- (2) 使用する薬剤は、表2及びIRACコード (<https://www.jcpa.or.jp/labo/jirac/moa.html>) を参考に剤の特性を考慮して選定する。散布後も発生が認められる場合は、異なる系統の薬剤で追加防除する。
- (3) 葉裏など薬剤のかかりにくい部位にも寄生しているので、丁寧に散布する。
- (4) 薬剤の使用回数、濃度、使用量、使用時期を遵守し、薬害防止のため混用適否表を確認するとともに、周辺作物への農薬飛散（ドリフト）に注意する。

表2 今秋のミカンハダニ防除の考え方（参考）

ミカンハダニの発生状況	薬剤使用の考え方
多発生（要防除水準超過）	直ちに殺ダニ剤のローテーション散布
中発生	他の発生害虫防除に主眼を置く（ピレスロイド系剤の使用は避ける）
少発生～発生なし	冬季にマシン油乳剤散布

熊本県病害虫防除所
 （農業研究センター生産環境研究所内）
 担当：清永 TEL：096-248-6490